

# 一心太助の天秤棒

## ～前の籠には責任を、後の籠には信頼を 肩に担で走り歩く～

越谷市会議員 白川 ひでつぐ  
シリーズ/NO 160号



Web サイト



Youtube



Spotify

### 駅頭は小さなドラマの連続だ！

初当選以来6期22年間毎日毎朝続ける東武鉄道の市内6駅での朝の駅立ちは、通算4300日を超えるました。私の日々のツイッターのつぶやきから、転載したものを含め、駅前の様々な市民との出会いや何気ない駅前の風景、市民の日常を通した暮らしへの息遣いをエピソード集としてシリーズでお届けしています。

YouTube の白川ひでつぐ公式チャンネルの登録者は294名を超えました。引き続き配信を継続していますので、これまでのご協力に感謝し、更にご登録をお願いします。

チャンネル登録



文化、芸術が軍隊に打ち勝つ、フランスの勝利は軍事力の差異ではない

第54回桜井地区文化祭と第24回桜井ミニティまつりが、11月15日桜井地区センターで開催された。

例年桜井地区に居住する6人の市議会議員が招待されており、代表して私がお祝いの挨拶をした。桜井地区での大きなイベント開催時には全員が招待されていることから、順番で代表挨拶をして来たが、今回は私の番となった。

開会式の会場となった多目的ホールには、この日研究発表をする越谷北高校生20人あまりが市民とともに参加していた。「本年は戦後80年の節目の年であり、第2次世界大戦の反省と日本の敗戦を改めて受け取める機会にあ

る。ドイツ軍の電撃侵攻でフランスに侵攻してわずか1か月半でフランスは占領され、パリ凱旋門への無血入場となつた。

ただ、国内でのナチ党へのレジスタンス運動が全土で沸き起つただけに、占領されたフランス政府とドイツ軍からの弾圧は熾烈を極めた。最終的にはドイツは敗戦国となりフランスは戦勝国となつた。

フランスは当時から世界の芸術の都であり、パリはその象徴的な都市として有名だった。

文化や芸術は、感銘や感情に影響を及ぼす人間の意識活動であり、それは人と人の関係性を築いて行くことが最大の効果だろう。

その意味では、多様性や共生が求められる事でもあり、これは国境を越えて様々な人々の交流や連帯を生んで行く。つまりフランスの勝利は、軍事力ではなく文化や芸術の力が最終的な大きな勝因と言える。

その意味から、本日のまつりに参加しておられる市民の皆さん、その事を確認し合う場として頂くことを期待しています。」と挨拶をした。  
(11月15日・土曜日)

ケアの不足と民主主義の欠陥は表裏一体であるージョーン・トロント（政治学者）—

大阪社会保障推進協議会が主催した第10回全国地方議員社会保障研修会に、11月17日から3日間参加した。会場は大阪市の主催者のホールだったが、初日は午前10時スタートのため午前5時過ぎには自宅を出で新幹線に乗り込んだ。「学校での性暴力を食い止めるには」「いのち・くらしをまもるための自治体での社会福祉政策で出来ることは何か」「自治体財政の基本と地方自治体の新しい地平を考える」「介護保険25年を検証し今自治体がすべきことを考える」等6講座であり、それぞれ大学の教授や専門家が講師となった。

その中で大谷大学の社会学部教授の中野加奈子先生の講話が印象的だった。この間生活保護基準の引き下げが政府によって実行されたが、これに反対する受給者を中心に1万人を原告とする裁判の結果、本年6月27日最高裁は引き下げは違法との結審となり、この最高裁判決は史上初となった。これは、権利としての社会福祉に大きな影響力となった。越谷市でも制定されたケアラ一条例の本旨と何か。（裏面へ）

ケアは家庭・私的領域の行為とされがちだが、トロントは「ケアは政治的・制度的に構成されるものであり、民主主義の中心に据えられるべき」と主張し更に「ケアが制度的、社会的に保障されなければ、民主主義も十分に機能しない」。また「ケアをただサービスとして提供するのではなく、制度・慣行・文化そのものを変える政治的プロジェクトとして捉える」「ケアの制度化・公共化こそが、より良い民主主義を築く鍵」との言葉は極めて本質的指摘となった。

(11月17日・18日・19日)

## 小学校2年生が電車通学途中に困惑した原因は。無事に学校の授業に間に合つた?

越谷市の県議定員2名を補充する補欠選挙が、11月21日に告示され、6人が立候補して30日の投票日にむけ選挙選がスタートした。自民党公認だった県議が急逝したことから今回の補欠選挙となった。従って2名が当選するのだが、本選(令和9年4月)までの1年4か月の任期となる。

11月に実施された越谷市長選挙で私が応援した福田晃市長が2期目のスタートを切ったばかりだが、直ぐに補選となり連続した選挙運動となつた。この補選に3期10年間の越谷市議会議員を辞職して立候補した、山田裕子氏を私は応援した。

その選挙期間中は、山田候補の応援のため連日の朝の駅頭宣伝活動に毎日参加した。午前7時から午前8時までの1時間のため、この間20数年毎日取り組んでいる朝の駅頭のスタートは午前6時、終了は午前8時30分に比較して、それほどではなかった。しかし選挙期間中は朝8時以降しか選挙チラシの配布は禁止されており、マイクの使用も出来ないため、肉声のみの呼びかけとなつた。こちらも日常的に2時間30分間マイク使用で話しているので、何ら問題はなかった。ただし、市長選挙期間中と同様に通常市政レポートを受け取つて頂く、馴染みの市民の方の少なからずの方が、私と気づかずに目の前を通り過ぎて行く光景がどの駅にも見られた。この日は新越谷駅東口での活動となつたのだが、この駅は市内の6駅でも最も多く通勤客が行きかう駅前だ。午前7時30分頃制服姿の小学生が前を通り過ぎたのだが、何か様子がおかしい。目が虚ろであり所座投げにゆっくりと歩いていたため、たまらず声を掛け

た。大丈夫、何か困っていないの?と。すると首を小さく横にふり、力なく大丈夫との返事だった。

心配ではあったが、そのまま南越谷駅に向かうのを見守るしかなかつた。

ところが、15m先にいた山田候補も声をかけたため話し込んでいる姿が見えたが、声は聞こえない。そのため更に二人に近づいて行き、再びこの子との話になつた。その中で交番に行きたい、との希望だったので、最寄りの交番に私が連れていくことを承認してもらった。

交番には警察官が3人おられて事情を簡単に話して対応をして頂きながら、じっくりと話し込んだ。この子はレイクタウンに居住しており私学の開智小学校の2年生で、持参している定期券は東岩槻駅までだが、何時もより駅到着が遅れていまい、通常のスクールバスがすでに出発してしまつた。そこで東岩槻駅から学校までどうしていこうかと悩んでいたので、交番の警察官からお金を取りられないか、と思い悩んでいたと。母親の名前や携帯番号もすらすらと答えていた。事情がほぼ判明したためか、警察官から、こちらで対応するので駅に戻つて下さい、と促されたので駅頭に復帰したが、無事に学校に行けたのだろうか、と少し心配には思えたが、この子は最初に話しかけた私にではなく、山田候補を頼りにしたことに少しの嫉妬を覚えたのだが。

(11月27日・木曜日)



## 支援学校の卒業生は、大学進学の統計データーから排除、インクルーシブ教育の名の基に

先の県会議員補欠選挙でトップ当選した、山田裕子議員の選挙報告会が、中央市民会館で開催され私も参加し挨拶した。この中で、山田県議が最も力を入れて来た人権問題に触れ先ごろ文科省が発表した、大学進学率の統計データーに特別支援学校の卒業生は対象外としてきた事実が明らかになつた。インクルーシブ教育の推進を叫んで来た姿勢とは真逆の事態に。正に人権問題だ。

(12月2日火曜日)